

カリキュラム（中級） / 環境構築 / 02_ejs

目的

- EJSの基本を理解する
- EJSを使ってサイト開発ができるようになる

概要

EJSとは

EJS（イージェーエス）とはテンプレートエンジンと呼ばれるNode.jsのパッケージです。EJSを使うことでHTMLの共通した記述を使いまわすことができ、開発効率が高くなります。

また、if文やfor文といったJavaScriptの基本的な構文も用意されています。

JavaScriptのテンプレートエンジンは他にもたくさんありますが、EJSはHTMLをそのままかけるので初心者でも馴染みやすく、MMの受託開発ではEJSを採用しています。

EJSの使い方！静的なHTMLサイトで「共通パーツ」と「変数」を使おう

前編 テンプレートエンジンとは

実践

注意点

- work/02-ejsフォルダで作業してください
- webpackでEJSを使う為の環境は用意しているので、02-ejsに移動し、**npm install**を実行しモジュールをインストールしてください
- 02-ejsで **npm run start**を実行するとwebpack-dev-serverが起動し、<http://localhost:9000> にアクセスするとローカルサーバーが立ち上がります。（controll + c を押すとローカルサーバーを落とせます）
- webpack-dev-server起動時はファイルを変更すると自動でリロードがかかるのでブラウザの再読み込みは不要です。
- エラーが発生した場合はエラーメッセージの該当箇所を修正し、再度npm run startを実行してください。

要件

- answer/02-ejsのindex.htmlとabout.htmlと同じ画面を実装すること（スタイルの実装は本質ではないので、cssはanswerからコピーしてきても構いません。）
- work/02-ejsフォルダで npm run start を実行すると画面が確認できること

機能要件

- work/02-ejs/index.ejs ファイルにindex.htmlの記述を、work/02-ejs/about/index.ejs ファイルにabout.htmlの記述を書くこと
- HTMLの共通部分（headタグなど）はtemplatesフォルダ内に共通記述用のファイルを用意し、includeを用いて開発すること（現環境だとinclude関数が使えない為、<% include src/templates/_head %> のように記述してください）
- index.htmlの「1. HTML...」部分は変数で配列を定義し、for文で生成すること
 - 1., 2. 部分はfor文のindexを使用すること

添付ファイル (0)



白藤 卓也によって 2020/10/26 19:16:34 に作成されました。